

盛重略○中

同正○天十三年、根來寺破却の後、盛重、遠州濱松の御城下にいたり、大權現○徳川に拜謁すると
き、盛重は元根來寺の法師なり、今よりのち根來と稱すべしと嚴命あるにより姓とす。

〔宗氏家譜〕判官公

宗、中略、

公避源氏之難、姑冒其乳母之姓曰我惟宗氏也、因又稱之惟宗判官、從是世惟宗爲姓○中略

彌次郎左衛門尉公

中略、宗、

寛元四年、公襲封○中公始立宗氏、

公借氏外族始立宗氏、姓惟宗如故、

〔高階氏系圖〕惟真

高新五郎

惟範、惟長

惟重

高右衛門

重氏、高左衛門、
師泰、越後守

惟重

高右衛門

惟範、惟長

〔太平記十四〕節度使下向事

左馬頭直義朝臣不斜喜テ、軀テ鎌倉ヲ打立テ、夜ヲ日ニ繼デ被急ケリ、相隨フ人々ニハ、略、中、高武
藏守師直、越後守師泰、略、下

〔吾妻鏡〕治承四年五月十五日丙寅、今日戌刻、檢非違使兼綱、光長等、相率隨兵、參彼三條高倉御所、
居所、以仁王、中略、此間長兵衛尉信連取大刀相戰、光長郎等五六輩、爲之被斃、

〔大日本史〕百六十長谷部信連、略、中平氏滅後至鎌倉、源賴朝錄其舊功、收爲家士、補安藝檢非違使
所、賜能登大屋庄、略、中子孫世居能登、以長爲氏、

〔末森記〕サテ能登國七尾城ニハ、一國ノ人數過半置タマヒ、本丸ニハ利家卿舍兄前田五郎兵衛尉、

截姓字爲苗字